

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4079800191		
法人名	社会福祉法人 福智会		
事業所名	グループホーム ふくち		
所在地	福岡県田川郡福智町弁城4193番地28 (電話) 0947-22-1434		
自己評価作成日	平成 24 年 6 月 10 日	評価結果確定日	平成 24 年 9 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域密着型事業としての活動に特に力を入れている。地域老人会のふれあい交流に利用者と職員が参加をし、交流を図りながら、地域の一員であることを意識できるようにしている。
また、保育園や小学校との交流もこちらから積極的に出かけていくことにより、子供たちと触れ合う機会を、出来るだけ多く提供できるようにしている。
更に、個別ショッピングやバスハイク等日常生活に沿った外出の機会をできるだけ増やし、毎日を元気に過ごすことを目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 24 年 6 月 27 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

山々に囲まれた自然の中に位置し、母体施設の特別養護老人ホームに隣接した木造1階建て2ユニットの事業所である。事業所は木の温もりを感じる造りであり、広々と落ち着ける雰囲気醸し出している。敷地内には家庭菜園があり、四季の野菜を利用者ととともに育て収穫している。
また事業所は、理念をもとに年度毎に目標を掲げており、今年度は「①地域との交流推進、②利用者家族との交流推進、③日常生活に密着した活動の推進」の3つを活動基本方針とし、その実践に向けた独自の取り組みとして、「ふくちの日」＝地域住民を事業所に招く日、や「ふれあい交流」＝地域の公民館へ利用者職員が出向き活動を行う、等を実施し地域交流を深めている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念は、人権尊重、能力発揮、地域交流、の3本柱から成っており、その実践のため、年度目標を定め、職員と共に日々のサービス提供に努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた独自の理念をつくり、その理念をもとに年度目標である「①地域との交流推進、②利用者家族との交流推進、③日常生活に密着した活動の推進」の3つの活動基本方針を職員と一緒に作り上げ、朝礼や月に1度の職員会議等の場で、年度目標の達成に向けた取り組みについて話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一昨年より行っている地区老人会の“ふれあい交流”への参加や、保育所や小学校への積極的な出張交流を継続し続けることにより、地域の一員として暮らせることを目指している。	地域の祭りや学校行事に参加したり、事業所主催の行事に地域住民を招いたりしている。また独自の取り組みとして、月1回「ふくちの日」を設け、民生委員や老人会、入居待機者を事業所へ招いている。その他、月に1度地域の公民館へ利用者と職員が出向き、体操を行う（ふれあい交流）など、地域との交流を深めるよう努めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームと地域との交流窓口として“ふくちの日”を設け、地区老人会、民生委員の皆様に参加して頂き、ホームの内容や利用者の状況を知って頂くようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて提案された内容等については前向きに対応し、サービス向上に努めている。	運営推進会議を2ヶ月に1度開催。サービス利用状況、評価への取り組み状況、その他活動報告等を行っている。委員からは、事業所の中庭にあるウッドデッキの活用や、利用者が楽しく過ごせるような個別の取組みを充実させるよう個別リハの取組みなど、積極的意見が出され、その意見を受けて、既に改善に取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して行政担当者と意見交換を行い、連携をとっている。	要介護認定の更新時には行政担当部署との連携を図っている。また、災害時における地域および事業所の対策について考えるために、行政に対して防災会議を開くよう働きかけている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隣接施設の拘束検討委員会に参加、協力し、拘束のない介護サービスの提供に努めている。	玄関・居室は施錠していない。職員は利用者の外出傾向等を把握し、付き添いや見守りを行っている。事業所は「拘束委員会」を設け、月1回事例を通しての勉強会を行い、全職員が身体拘束に関する理解を深めるよう学ぶ機会を設けている。マニュアル、研修資料・記録・報告書等がある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	隣接施設の拘束検討委員会とも協力しながら、虐待に対する研究を行い、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	折に触れ、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員間で話し合っている。	内部研修で全職員が制度について学ぶ機会が持てるよう、新人研修を行っている。また町内の14事業所で構成されたグループホーム協議会で勉強会を実施し、制度について学んでいる。研修記録、報告書はあるが、研修テキストやパンフレット等はない。制度について、利用者・家族等へは、利用開始時に管理者が説明を行っている。	研修テキスト等の資料については、全職員がいつでも閲覧できるよう、職員の個人保管とせず、事業所として保管して頂きたい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び契約解除時には、利用者や家族には事前に十分な説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者代表や家族代表に出席して頂き、忌憚のない意見を出して頂いて、運営に反映させる努力をしている。	年に1回、嗜好調査や生活に関するアンケートを実施し、結果を食事等に反映させている。事業所の管理者とケアマネジャーは、日頃から面会時等に利用者及び家族等から、個別の意見や要望・苦情等を聴き取るようコミュニケーションに努めている。意思表示困難な利用者に関しては、本人の表情等により本人が望まれることを予測し、また生活歴や利用者一人ひとりの背景を把握するよう努めている。事業所以外の苦情に関する第三者相談窓口については、入居契約時に説明している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、その他の機会を作り、職員と様々な問題について話し合っている。また、必要に応じ個別にも話し合っている。	自己評価作成については、項目で分担し全職員に記入してもらい管理者がそれを集約し作り上げている。管理者は、職員の目的意識を育てるために職員全員個人目標を立て、半年に1回評価のための面接を行っている。また日頃から意見や提案を引き出せるよう、管理者と職員のコミュニケーションを大切にしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を採り入れており、職員個々に応じた職務目標の設定、達成度の確認・評価・面談を行い、向上心をもって働ける職場作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、年齢、性別等を問わないことにしている。また、職場では、職員の特性に応じた役割分担を心掛けており、基本方針として、定年まで働いて頂くようにしている。	採用選考では、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。定年後も希望に応じ再雇用も可能である。また、資格取得の推奨を行っており、そのための勉強会を実施しサポートしている。また、職員の得意分野を活かし職員は働きがいを感じる事が出来るよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育の研修等には極力参加するようにしている。また、利用者の尊厳に対する人権等の啓蒙活動については、専門委員会、ケアカンファレンス、朝礼、終礼等を通して行っている。	全職員対象に内部研修があり、一部職員は人権に関する勉強会に参加し学ぶ機会が与えられてる。研修についての研修記録・報告書はあるが、外部研修のテキスト・パンフレットはない。	研修テキスト等の資料については、全職員がいつでも閲覧できるよう、職員の個人保管とせず、事業所として保管して頂きたい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当法人は人事考課制度を導入している。職員一人ひとりの経歴、職務能力に応じた年間職務目標を管理者・職員面談の上で決定し、年間を通し目標達成に取り組んでいる。又、職員の能力に応じた研修を適宜確保している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町社会福祉協議会主催のサポーター会議やグループホーム協議会等に参加し、各々が抱えている問題点に考察を重ね、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の段階ではまず、本人の話しやすい状況や雰囲気を作ることに心掛けている。そのうえで思いや不安、要望を聞き、本人の置かれている状況を理解することにより、安心して頂けるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入の段階では、これまでのご家族の苦労や入所希望に至った経緯等についてじっくりと耳を傾けるようにしている。そのうえで、思いや不安、要望、今必要としている事について、共に考えていくことに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容により必要と思われる場合は、他のサービスの説明や他の事業所の紹介を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴や話し合いの中から、出来る事、得意な事を見出し、本来の力が発揮出来るよう支援している。又、食事作りや買物等、暮らしを共に出来るよう心がけている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状態や日常の様子を家族と細めに連絡を取り、情報を共有することにより、家族と共に本人を支えていく関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活地域の交流に参加したり、馴染みの人々の訪問を促したり、こちらから出向いたりして、昔ながらの関係が途切れないよう支援している。	利用開始時、利用者の基本情報を聴取する際に本人および家族等から生活歴等を聴き取りを行っている。また、事業所独自のアセスメントとして「生き甲斐調査表」を用いて利用者の背景について深く理解するよう努めている。馴染みの人との関係が途切れないよう、月に1度地域の公民館へ出向き（ふれあい交流）、友人と会う機会をつくり関係支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりが密になるように、居室で過ごすことを極力控え、食堂や和室、廊下のソファ等で過ごされる時間が多くなるよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり、関連施設へ転居された後も、面会に行ったり、家族と連絡を取ったり、訪問する機会を設けたりして、継続的な関わりを持ち、よりよい人間関係を保っているように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、本人の生活歴、職歴、病歴、生きてきた足跡等を見出し、本人の思いや生きがい等の核心に触れることが出来るよう心がけている。また、声かけを行う際も本人の意思が尊重できるように心がけている。	入居時のアセスメント情報に加え、日々の暮らしの中で知り得た利用者の思いや意向は、職員間で意見交換しながら支援の質の向上を図っている。意思表示が困難な場合は、普段の言動や表情から汲み取り把握するようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との話合いの中から、生活歴、暮らし方、生活環境等を把握し、サービスを提供していくように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムや体調、その日の気分等を確認しながらサービスを実施している。また、ちょっとした仕草からも本人の心身状態の把握ができるよう、努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いや要望の聞き取りを行った後、計画作成担当者が中心となり、カンファレンスにて協議し、本人や家族の意向に基づいた利用者本位の介護計画を作成している。	職員全員で利用者一人ひとりの状況把握に努め、サービス担当者会議でケアプランの作成及び実施を行っている。介護職員のアイディアにより、猫や植物の世話など日常生活における役割を持ち、生きがいがあるような支援も見られる。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別のファイルに、食事、水分量、排泄、バイタル等の身体状況、日々の暮らしの様子、気づき等を記録している。また、朝礼や終礼にて申し送りを行い職員間で情報を共有し、継続介護できるようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態に応じて家族と相談しながら、早期の病院受診や定期受診を行い、安全で安心した生活が送れるよう心がけている。また、利用者の要望に応じた個別ショッピング、バスハイク、園外散歩等にも細めに応じられるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して行政や地域の福祉関係者より助言等をいただき、日々のサービス提供に生かしている。また、社協や地区老人会の皆様にもご協力をいただき、ふれあい交流や、保育所、小学校にもご協力をいただき、より豊かな地域生活を送れるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はあるが本人にかかりつけ医があれば、基本的には、継続的に医療が受けられるようにしている。	利用者・家族が希望する医師をかかりつけ医とし、継続的に医療が受けられるよう受診を支援している。受診時には家族へ連絡を取り状況に応じて対応している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接施設の看護職員や協力病院の看護師と連携を図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の場合は、病院側に本人の生活状況や特徴を伝え、認知症の進行や身体機能の低下に配慮しながら、主治医、家族と情報交換し早期退院に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合は、家族や本人の希望を重視し、今後の方針について家族、主治医、職員と連携をとりながら検討するようになっている。	重度化した場合の対応マニュアルがあり、契約前に説明を行っている。重度化や終末期においては本人・家族の意向を聞きながら看取りや、隣接施設との連携による対応ができるようにしている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命訓練を年1回実施している。また、マニュアルに基づく勉強会を行い職員全員に周知徹底を図っている。正月前には誤嚥時の対応について勉強会を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月毎に防火訓練を隣接施設と共に実施している。また、自動火災通報設備の設置により緊急連絡体制も整備している。地域とは、協力体制を作る申し入れをしている。	マニュアルを作成しており、定期的に隣接施設と防火訓練を実施している。総合訓練では、消防署の協力を得て避難訓練等を行っている。また、地震・水害時についても、緊急連絡網を整備し、災害発生から短時間で現場で活動できるシステムを構築している。非常食についても事業所内に準備できている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーの侵害にならないよう排泄時や入浴時には配慮した言葉かけや介助を行っている。訪室時には必ずノックするようにしている。	理念に基づき、内部研修や日々のミーティング、管理者による面談等を通じてプライバシー保護についての認識を深めている。内容についても尊厳のある言葉かけが出来るよう取り組まれている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出時や入浴後の衣類の選択、行事食等のメニュー、ショッピング、散歩、ドライブ等、毎日のコミュニケーションを通して、利用者の希望に沿った支援を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大勢で居ることを好む人、煩わしいと感じる人等、その人のペースに合わせた行事への参加や、したい事等の選択をしながら毎日を過ごせるよう配慮している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年2回の理美容ボランティアを利用したり、職員によるカットや毛染めを行っている。男性は毎日の髭剃りや整髪、女性は好みに応じて白髪染め、マニキュア、化粧等を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせた食事形態を考慮したり、好みによるパン食や、行事食の希望のメニュー等利用者の希望にも配慮している。また、食事の準備、調理、盛り付け、配膳、後片付け等も無理の無い範囲で手伝ってもらっている。	利用者と職員が所有の菜園で野菜等を収穫し調理している。準備、食事、片付けについても利用者と職員共に行い、会話や笑顔が絶えない場面作りができている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューの基本的なカロリー計算は食材業者が行っているが、利用者のBMI値やアルブミン値を測定し栄養状態を確認している。また、毎日の食事量や水分の種類、摂取量も記録し、日々の食事管理も行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生には十分に配慮している。毎食後の口腔ケアは習慣化しており、利用者の能力に応じた支援で清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンやリズムを把握し、トイレへの声かけ、誘導を行うことで尿取りパットやオムツを使用しないですむように支援している。	排泄ケア記録を行い一人ひとりの排泄パターンに合わせてトイレ誘導及び介助を行っている。意思疎通が困難な場合も、利用者の行動に注意を払い、その仕草によって利用者の尿意などを察して誘導をしている。 排泄ケアについては尊厳やプライバシーを考慮し、さりげなく行うようにしている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェックリストにて把握し、水分補給状況も記録し確認している。食物繊維の多い物（ヨーグルト、バナナ、飲むコンニャクゼリー等）の摂取、体操、腹部マッサージ等を行い、便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日、昼夜問わず利用者の希望の時間や体調に合わせて入浴支援を行っている。	毎日、利用者の希望に合わせた時間帯での入浴が可能である。 入浴を拒否される利用者には、言葉かけの工夫や利用者のなじみの職員が対応する等、快く入浴を楽しむことができるように支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、本人が眠くなったときに眠るようにしている。極力、薬を服用せずに安眠できるよう心掛けている。しかし、寝つきの悪い時や不穏時には、和室を利用したり、お茶を提供したりして、会話をしながらリラックスできるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助時は3点確認を行い、飲込むまでの確認を徹底している。追加処方の場合は状態観察を細かく行い、変化が見られれば受診を行い、薬の調節を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の会話の中から、利用者の得意な事や興味のある事を引き出して、日々の生活に生かしていけるよう心がけている。（個別ショッピング、畑、散歩、編物、折紙、台所手伝い等）		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活の中の取り組みとしてできるだけ外出することを心がけており、行事のみならず本人の希望によりショッピングに出かけたり、散歩や園外活動、季節の花見物等その時々に応じ対応している。	天候に応じて散歩はほとんど毎日行っている。食材は毎日物産館で購入しており、利用者も一緒に出向いて品定めをしている。ミニデイと称して地域内の施設で過ごす機会を設けるなど外出の頻度は高い。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な利用者には、職員確認のうえ自己管理してもらっている。出来ない方にはショッピングの時にお金を渡し、支払いができるよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に対し、毎月月間行事表を、3ヶ月毎に“ふくちだより”を郵送し、ホームの様子を知らせている。日頃来所できない家族には、一言添え利用者の様子が判るようにしている。また、本人の希望があれば、電話をかけられるようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良いホール、ウッドデッキがあり、日中の強い日差しは、レースのカーテンやすだれで遮光している。換気にも十分配慮している。ウッドデッキには季節の花のほか猫を飼うなどして活用している。トイレは尿集などしないようこまめに掃除をしている。	館内は木調で自然光が射し込む明るい感じとなっている。中央にはウッドデッキスペースがあり、季節の花や植物を育てたり猫を飼う等がなされ、居心地良く過ごせる空間となっている。ユニット間も常時行き来され全体的に開放感が感じられる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファ、玄関先のベンチ、和室、食堂等、思い思いの過ごし方ができる場所を確保している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や馴染みの品、季節の花やレクリエーションで作った作品等を居室に置くことにより、安心感や居心地の良さを感じてもらえるようにしている。	各部屋は、趣味で作られた飾りや家族との写真を貼るなど利用者の想いを大切にしたり、部屋作りを行っている。また、温湿度計を設置し、空調調整を行っている	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の工夫として、まずバリアフリーの設計になっており、必要箇所への手すりの設置、4ヶ所に設置されたトイレ、センサー式蛇口の洗面所、滑り止めマット使用の浴槽などがある。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
			○	② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		① ほぼ全ての職員が
			○	② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念は、人権尊重、能力発揮、地域交流、の3本柱から成っており、その実践のため、年度目標を定め、職員と共に、日々のサービス提供に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	一昨年より行っている地区老人会の”ふれあい交流”への参加や、保育所や小学校への積極的な出張交流を継続し続けることにより、地域の一員として暮らせることを目指している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームと地域との交流窓口として”ふくちの日”を設け、地区老人会、民生委員の皆様に参加して頂き、ホームの内容や利用者の状況を知って頂くようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて提案された内容等については前向きに対応し、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して行政担当者と意見交換を行い、連携をとっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設の拘束検討委員会に参加、協力し、拘束のない介護サービスの提供に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	併設の拘束検討委員会とも協力しながら、虐待に対する研究を行い、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	折に触れ、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員間で話し合っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び契約解除時には、利用者や家族には事前に十分な説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者代表や家族代表に出席して頂き、忌憚のない意見を出して頂いて、運営に反映させる努力をしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、その他の機会を作り、職員と様々な問題について話し合っている。又、必要に応じ個別にも話し合っている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を採り入れており、職員個々に応じた職務目標の設定、達成度の確認・評価・面談を行い、向上心をもって働ける職場作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、年齢、性別等を問わないことにしている。又、職場では、職員の特性に応じた役割分担を心掛けており、基本方針として、定年まで働いて頂くようにしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育の研修等には極力参加するようにしている。又、利用者の尊厳に対する人権等の啓蒙活動については、専門委員会、ケアカンファレンス、朝礼、終礼等を通して行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当法人は人事考課制度を導入している。職員一人ひとりの経歴、職務能力に応じた年間職務目標を管理者・職員面談の上で決定し、年間を通し目標達成に取り組んでいる。又、職員の能力に応じた研修を適宜確保している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町社会福祉協議会主催のサポーター会議やグループホーム協議会等に参加し、各々が抱えている問題点に考察を重ね、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の段階ではまず、本人の話しやすい状況や雰囲気を作ることに心掛けている。そのうえで思いや不安、要望を聞き、本人の置かれている状況を理解することにより、安心して頂けるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入の段階では、これまでのご家族の苦勞や入所希望に至った経緯等についてじっくりと耳を傾けるようにしている。そのうえで、思いや不安、要望、今必要としている事について、共に考えていくことに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容により必要と思われる場合は、他のサービスの説明や他の事業所の紹介を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴や話し合いの中から、出来る事、得意な事を見出し、本来の力が発揮出来るよう支援している。又、食事作りや買物等、暮らしを共に出来るよう心掛けている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状態や日常の様子を家族と細めに連絡を取り、情報を共有することにより、家族と共に本人を支えていく関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活地域の交流に参加したり、馴染みの人々の訪問を促したり、こちらから出向いたりして、昔ながらの関係が途切れないよう支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ利用者同士の関わりが密になるように、居室で過ごすことを極力控え、食堂や和室、廊下のソファー等で過ごされる時間が多くなるよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり、関連施設へ転居された後も、面会に行ったり、家族と連絡を取ったり、訪問する機会を設けたりして、継続的な関わりを持ち、よりよい人間関係を保っていただけるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、本人の生活歴、職歴、病歴、生きてきた足跡等を見出し、本人の思いや生きがい等の核心に触れることが出来るよう心掛けている。又、声掛けを行う際も本人の意思が尊重できるように心掛けている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との話し合いの中から、生活歴、暮らし方、生活環境等を把握し、サービスを提供していくように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムや体調、その日の気分等を確認しながらサービスを実施している。又、ちょっとした仕草からも本人の心身状態の把握が出来るよう、努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いや要望の聞き取りを行った後、計画作成担当者が中心となり、カンファレンスにて協議し、本人や家族の意向に基づいた利用者本位の介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別のファイルに、食事、水分量、排泄、バイタル等の身体状況、日々の暮らしの様子、気づき等を記録している。又、朝礼や終礼にて申し送りを行い職員間で情報を共有し、継続介護できるようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態に応じて家族と相談しながら、早期の病院受診や定期受診を行い、安全で安心した生活が送れるよう心掛けている。又、利用者の要望に応じた個別ショッピング、バスハイク、園外散歩等にも細めに応じられるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して行政や地域の福祉関係者より助言等を頂き、日々のサービス提供に生かしている。又、社協や地区老人会の皆様にも御協力を頂き、ふれあい交流や、保育所、小学校にも御協力を頂き、より豊かな地域生活を送れるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はあるが本人にかかりつけ医があれば、基本的には、継続的に医療が受けられるようにしている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職員や協力病院の看護師と連携を図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の場合は、病院側に本人の生活状況や特徴を伝え、認知症の進行や身体機能の低下に配慮しながら、主治医、家族と情報交換し早期退院に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合は、家族や本人の希望を重視し、今後の方針について家族、主治医、職員と連携をとりながら検討するようになっている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命訓練を年1回実施している。又、マニュアルに基づく勉強会を行い職員全員に周知徹底を図っている。正月前には誤嚥時の対応について勉強会を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月毎に防火訓練を併設施設と共に実施している。又、自動火災通報設備の設置により緊急連絡体制も整備している。地域とは、協力体制を作る申し入れをしている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーの侵害にならないよう排泄時や入浴時には配慮した言葉掛けや介助を行っている。訪室時には必ずノックするようにしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出時や入浴後の衣類の選択、行事食等のメニュー、ショッピング、散歩、ドライブ等、毎日のコミュニケーションを通して、利用者の希望に沿った支援を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大勢で居ることを好む人、煩わしいと感じる人等、その人のペースに合わせた行事への参加や、したい事等の選択をしながら毎日を過ごせるよう配慮している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年2回の理美容ボランティアを利用したり、職員によるカットや毛染めを行っている。男性は毎日の髭剃りや整髪、女性は好みに応じて白髪染め、マニキュア、化粧等を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合せた食事形態を考慮したり、好みによるパン食や、行事食の希望のメニュー等利用者の希望にも配慮している。又、食事の準備、調理、盛り付け、配膳、後片付け等も無理の無い範囲で手伝ってもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューの基本的なカロリー計算は食材業者が行っているが、利用者のBMI値やアルブミン値を測定し栄養状態を確認している。又、毎日の食事量や水分の種類、摂取量も記録し、日々の食事管理も行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生には十分に配慮している。毎食後の口腔ケアは習慣化しており、利用者の能力に応じた支援で清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンやリズムを把握し、トイレへの声掛け、誘導を行うことで尿取りパットやオムツを使用しないですむように支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェックリストにて把握し、水分補給状況も記録し確認している。食物繊維の多い物（ヨーグルト、バナナ、飲むコンニャクゼリー等）の摂取、体操、腹部マッサージ等を行い、便秘予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日、昼夜問わず利用者の希望の時間や体調に合わせて入浴支援を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、本人が眠くなったときに眠るようにしている。極力、薬を服用せずに安眠できるよう心掛けている。しかし、寝つきの悪い時や不穏時には、和室を利用したり、お茶を提供したりして、会話をしながらリラックスできるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助時は3点確認を行い、飲込むまでの確認を徹底している。追加処方の場合は状態観察を細かく行い、変化が見られれば受診を行い、薬の調節を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の会話の中から、利用者の得意な事や興味のある事を引き出して、日々の生活に生かしていけるよう心掛けている。（個別ショッピング、畑、散歩、編物、折紙、台所手伝い等）		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活の中の取組として出来るだけ外出することを心掛けており、行事のみならず本人の希望によりショッピングに出かけたり、散歩や園外活動、季節の花見物等その時々に応じ対応している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な利用者には職員確認のうえ、自己管理してもらっている。出来ない方にはショッピングの時に金を渡し、支払いが出来るよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に対し、毎月、月間行事表を、3ヶ月毎に”ふくちだより”を郵送し、ホームの様子を知らせている。日頃来所出来ない家族には一言添え利用者の様子が判るようにしている。又、本人の希望があれば、電話を掛けられるようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良いホール、ウッドデッキがあり、日中の強い日差しは、レースのカーテンやすだれで遮光している。換気にも十分配慮している。ウッドデッキには季節の花のほか猫を飼うなどして活用している。トイレは尿集などしないようこまめに掃除をしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファ、玄関先のベンチ、和室、食堂等、思い思いの過ごし方ができる場所を確保している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や馴染みの品、季節の花やレクリエーションで作った作品等を居室に置くことにより、安心感や居心地の良さを感じてもらえるようにしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の工夫として、まずバリアフリーの設計になっており、必要箇所への手すりの設置、4ヶ所に設置されたトイレ、センサー式蛇口の洗面所、滑り止めマット使用の浴槽などがある。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
			○	② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		① ほぼ全ての職員が
			○	② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない